

プロスポーツ

PROSPORTS KEIRIN WEEKLY MAGAZINE

KEIRIN
グランプリ
号外版



G1で3Vの古性優作



GP展望
昨年に続き全日本選抜、高松宮記念杯を連覇した古性優作は、寛仁親王牌も4連勝で制覇し、今年はG1で3Vの偉業を達成した。寛仁親王牌は不在だった脇本雄太とこの大舞台で再びタッグを組めるのも心強く、21年に続きグランプリ2V目を飾るとみた。オールスターで落車負傷して約2カ月半の欠場を余儀なくされた脇本は、予定通り11月から復帰。競輪祭では決勝こそ結果を出せなかったものの、十分に戦える状態だったし、更に調子の上積みは見込める。輪界トップの機動型としてグランプリ連覇の大仕事を達成する可能性は大いにありそうだ。

今年は大躍進を遂げた眞杉匠。オールスターでタイトルホルダーの仲間入りを果たすと、競輪祭では2V目をゲットしている。競輪祭の決勝は単騎ながら俊敏な立ち回りと鋭い伸びを披露していて、同じく単騎戦が予想されることも流れに乗っての一発は怖い。

松浦悠士、清水裕友の中国ゴールデンコンビは、2年ぶりにグランプリでタッグを組む。今年の松浦はG2で2Vを飾っている。清水もダービー連V、オールスターは決勝4着、11月防府記念では自己の記録を書き換える6連覇を達成するなど、随所で存在感を示した。今回は清水が前で戦うが、清水は勝負所で必ず仕掛ける選手なので目が離せない。

新山響平、佐藤慎太郎の北日本勢も好勝負が見込める。持ち味であるスケールの大きな競走でグランプリの出場権を獲得しただけに、新山の競走内容は高く評価できる。これも強気の競走で別線を沈黙させるか。佐藤はG1戦を中心に高いレベルで成績をまとめた。19年以降のVに闘志を燃やす。

新世代の先頭を切りダークでG1初戴冠を果たした山口拳矢、6年ぶりにこの舞台に帰ってきた深谷も最高峰のステージで輝きを取り戻したい。

KEIRINグランプリ2023出場予定選手一覧

競輪グランプリ						寺内大吉記念杯競輪					
級別	氏名	登録地	期別	直近4ヶ月競走得点		級別	氏名	登録地	期別	直近4ヶ月競走得点	
SS	佐藤慎太郎	福島	78期	118.64		S1	宮越孝治	富山	82期	100.60	
	脇本雄太	福岡	94期	117.44			中川誠一郎	熊本	85期	105.93	
	深谷知広	静岡	96期	117.13			村上博幸	京都	86期	112.55	
	松浦悠士	広島	98期	116.80			岡村潤	静岡	86期	107.87	
	古性優作	大阪	100期	118.84			湊聖二	徳島	86期	103.70	
	清水裕友	山口	105期	116.23			井上昌己	長崎	86期	110.26	
	新山響平	青森	107期	115.68			園田匠	福岡	87期	110.60	
	眞杉匠	栃木	113期	115.69			南修二	大阪	88期	116.70	
	山口拳矢	岐阜	117期	112.09			浅井康太	三重	90期	114.85	
ヤンググランプリ						S2	原誠宏	香川	91期	102.77	
級別	氏名	登録地	期別	直近4ヶ月競走得点			須永優太	福岡	94期	104.77	
S1	吉田有希	茨城	119期	107.48			須谷一樹	栃木	96期	109.45	
	北井佑季	神奈川	119期	113.97			磯田旭	栃木	96期	104.30	
	志田龍星	岐阜	119期	108.15			塚本大樹	熊本	96期	109.26	
	山根将太	岡山	119期	98.38			阿部力也	宮城	100期	107.84	
	犬伏湧也	徳島	119期	113.71			嶋津拓弥	神奈川	103期	105.44	
	中野慎詞	岩手	121期	112.44			渡邊雄太	静岡	105期	111.10	
	橋本杜史	茨城	119期	102.78			尾形鉄馬	宮城	107期	106.29	
	上野雅彦	香川	119期	102.88			鈴木竜士	東京	107期	108.86	
	太田海也	岡山	121期	118.00			取島雄吾	岡山	107期	109.42	
ガールズグランプリ						S2	高橋築	東京	109期	107.00	
級別	氏名	登録地	期別	直近4ヶ月競走得点			大石剣士	静岡	109期	106.22	
L1	児玉碧衣	福岡	108期	56.73			田尾駿介	高知	111期	106.55	
	梅川風子	東京	112期	61.33			松本貴治	愛媛	111期	111.08	
	坂口楓華	愛知	112期	57.30			嘉永泰斗	熊本	113期	115.47	
	佐藤水菜	神奈川	114期	63.00			小林悠葵	群馬	115期	110.75	
	久米詩	静岡	116期	58.00			石原楓	香川	117期	102.76	
	尾方真生	福岡	118期	56.40			橋本優己	岐阜	117期	104.55	
	吉川美穂	和歌山	120期	56.86			松井宏佑	神奈川	113期	116.74	
							小川圭二	徳島	68期	97.83	
							佐藤康紀	青森	73期	101.07	

KEIRINグランプリ出走表 (12/30出走)

紫 9 6 8 桃			橙 7 5 6 緑			黄 5 4 4 青			赤 3 3 黒			白 1 1			11 立川 S級 2025.5 7期 直近4ヶ月 前期得点 今期得点												
脇本雄太			新山響平			清水裕友			山口拳矢			深谷知広				眞杉匠			松浦悠士			佐藤慎太郎			古性優作		
福井 福井市 34			青森 八戸市 30			山口 防府市 29			岐阜 大垣市 27			静岡 旧軽米町 33				栃木 宇都宮 24			広島 広島市 33			福岡 東白川 47			大阪 和泉市 32		
94期181cm85			107期171cm71			105期166cm78			117期167cm70			96期169cm86				113期176cm74			98期168cm68			78期169cm73			100期168cm77		
SS CSC			SS CSC			SS Si CSC			SS Si CSC			SS Si CSC			SS Si CSC			SS Si CSC			SS Si CSC			SS Si CSC			
117.44			115.68			116.23			112.09			117.13			115.69			116.80			118.64			118.84			
118.57			114.42			113.05			112.92			113.50			114.86			115.85			116.11			120.22			
117.50			114.80			115.88			113.91			115.26			116.09			116.84			117.46			118.77			
AS 1																											

佐藤水菜が超速を発揮

2021、2022と2年連続

には負けたくないという意地もある。ベストの状態に仕上げて4V目をゲットといきたい。

女子王座戦で佐藤を撃破して初代女王に輝いた梅川風子の一発にも魅力を感じる。女子王座戦の予選はまくり勝ち、準決では逃げ切っていて、勝ち上がり戦から力強い走りを披露していた。うまくレースの流れに乗れば怖い。

今年はガールズケイリンコレクション平塚ステージ、ガールズケイリンフェスティバルで優勝と、飛躍を遂げた久米詩も侮れない。持ち前のレース巧者ぶりを発揮なら上位進出も望める。

オールガールズクラシックではオール2着の準Vと健闘した吉川美穂、今年は18V含み65勝と勝ち星を量産した坂口楓華にも注意したい。尾方真生も今年は坂口に負けずキャリアハイの白星、Vラッシュ。そろそろビッグレースでもその実力を発揮したい。



旧玉碧衣



YOUNGGRANDPRIX2023

先行力際立つ太田海也

第119期生、第121期生のSS

退すると12月伊東記念の初日特選は、松井宏を突つ張つて駆けるも山田久にあつさりまくられて2日目から欠場した。調子が戻れば豪快な一撃を決めてのVゲットは十分。

スケールの大きな先行でステージを上げてきた北井にも食指が動く。まだビッグレースで決勝には乗れていないが、9月向日町記念では、上がり11秒3の好タイムで逃げ切りV。自慢のパワーを存分に発揮できれば好勝負に持ち込める。

2023世界選手権のケイリンで、銅メダルを獲得する快挙を成し遂げた中野慎詞も有力な優勝候補だ。本業の競輪での成績は太田に譲るが、ポテンシャルの高さはかなりのもの。仕掛けがツポにはまれば主役を演じてても不思議ではない。

波乱を呼べば橋本壮史、吉田有希の茨城コンビか。徹底先行で鳴らす橋本が吉田を連れて積極的に飛び出せば、昨年準Vの吉田に好展開が巡ってくる。吉田は一時の乱調は脱した。

